



「キープスマイル・ステイポジティブ」  
「地域の特性を基に、知・徳・体・志を備えた児童の育成」



## <人権週間「12月4日～10日」子ども達とお話をしてみましょう！>

12月4日～10日は、世界人権週間です。花尾小学校では、校長の話（全校放送）や明日への伝言板の放送（毎日、給食時間）・各クラスでの人権について考える学習などの取り組みを行っています。4日（月）朝、全校放送で以下のようなことを話して、各クラスで人権について考えました。

### <人権週間のお話>

おはようございます。元気よく挨拶ができましたか？ 挨拶は、人と人をつなぐ大事な言葉です。挨拶が、上手な人は、相手の気持ちを考える思いやりの心をもっている人だと思います。相手より先に挨拶ができる、そんな素敵な人になってほしいです。



さて、今日は、校長先生から「人権週間」についてお話をしたいと思います。耳と心でしっかり聞いてください。毎年、12月4日から10日までの1週間は、「人権週間」といって、人が生まれながらにもっている権利についてしっかりと考える期間になっています。この「人権週間」は世界共通で、今年で、75回目になります。「人権週間」を簡単に言えば、皆さん一人一人が、人として大切にされているかを、いつもよりもっと深く考えて過ごす1週間ということになります。人は、生まれながらにだれでもが自由で平等で、一人一人、全ての人が大変な人です。だから、誰が偉くて、誰が偉くないとか、何かができるから偉くて、何かができないから偉くないなどと、人を差別するのは、許されないことです。悲しいことですが、花尾小学校においても差別や偏見がまだまだあります。

「みんなちがって、みんないい」これは詩人の金子みすずさんのことばです。みんなそれぞれちがいがあります。ひとりとして同じ人はいません。そのちがいを悪口やからかいの材料にするのは、人として絶対に許されないもので、違いを個性として認めることが大切です。みんなちがって、みんないいんです。

学校では、差別や偏見のことを「いじめ」と言います。校長先生は、いじめに勝つには、皆さんのたくさんの「思いやりの気持ち」を集めることが大切だと思っています。「思いやりの気持ち」これは、人間にしかもっていない、とても温かくて素晴らしいものです。

この「思いやり」とは、花尾小学校では「ふわボカ」という言葉でも表しています。はなおっぴの「おーちゃん」です。このふわボカをいっぱい広げるためには、皆さん一人一人が「気付き、考え、実行する」ことが大切です。「気付く」というのは、相手の気持ちに気付くこと、友達の心や体の痛みに気付くことです。気付いたら、次に相手のために自分はどうすればよいかを考えること、そして最後に、自分で実行する、やってみることで。皆さん全員が「気付き、考え、実行する」ことを忘れなければ、花尾小学校は、「思いやりの気持ち」「ふわボカ」が一杯の素晴らしい学校になります。そうすれば、みんなが笑顔で学校に行きたくなる、そんな素敵な学校になります。そして、職員室の前の廊下にある「ふわボカの木」も、もっともっと大きくなっていくはずですよ。

この人権週間をとおして、差別とは何か・思いやりってどういうものかをクラスでしっかりと考えてみてください。そうすれば、花尾小学校から差別・いじめが減っていきます。ふわボカの木を成長させて、安心・安全で笑顔いっぱいの花尾小学校にみんなですていいきましょう。

花尾小学校でも、「机や持ち物に異物を入れる」「人の物を隠す」「カッとなると暴言を吐く」「死ね・消えろ・うざい等の言葉を平気で使う」等の事象も起こっています。そのような事象が起こった場合は各クラス・学年で指導していますが、すぐには解決できないこともあり、継続的に指導を行っていく必要があります。子どもの人権意識を高めるためには、学校においても日々指導を続けていきますが、保護者の協力も必要です。ご家庭において、日頃より人権感覚が高まるように、お子様にお話をさせていただくようお願いいたします。子ども達の人権意識を高めることが、いじめを無くす手立てにつながります。ご協力をお願いいたします。